



第 46 号

代田・九条の会News

2012/09/14

編集

代田・九条の会

小澤 清子

伊東 宏

itohiroshi1007@gmail.com

ホームページ : <http://www.procyon.sakuraweb.com/>

お知らせ：代田・九条の会 4周年のつどい

お話：「私たちは幸せになるために生まれて来た」

話す人：朴 慶南（パク・キョンナム）さん

三線（さんしん）の演奏：渋谷がじゅまる のみなさん

井上ひさし・小田実・加藤周一・三木睦子・梅原猛・大江健三郎・奥平康弘・澤地久枝・鶴見俊輔さんの9人の方がたの呼びかけに答えて、2008年11月3日に「代田・九条の会」が発足しました。今年は4周年になります。国会で憲法審査会が審議を始めて、憲法9条を変えようという動きが出てきています。「戦争をしない国、日本」をしっかりと守って、日本国憲法第九条を次の世代に無傷で手渡すために、ご一緒に考えていこうではありませんか。ぜひご参加ください。

と き：2012年11月3日（土・文化の日）午後1時30分～4時

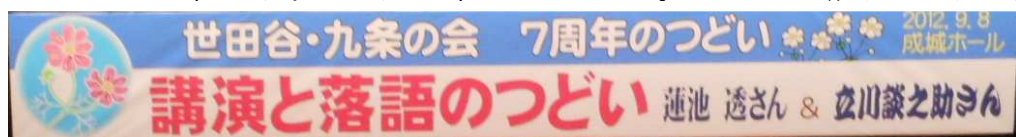
と ころ：東京都民教会（代田5-35-2）電話：03-3412-3952

世田谷・九条の会が7周年のつどい

9月8日（土）午後、成城ホールで公演と落語のつどいが開催され、300人余りの人が参加しました。戦時中、落語は「勇ましくない」「力が抜ける」などで禁止されてしまいました。落語家達が自主的に53種を封印する（「禁演落語」といいます）ことによって生き延びました。その中の一つ「目薬」を披露した立川 談之助さん。こんな話を禁じて戦争に勝てるわけではない、と笑い飛ばしました。

講演は、元東電・福島第一原発の保守管理も担当した蓮池 透さんが「原発を考える—左右の垣根を超えて」と題してはなされました。原発が動いている間は、大量の核のゴミが発生し続け、このごみに対しては、管理も処理も何の方法もない状況になっているとのこと。何年後に「運転」をゼロにするといっても、この問題を解決しないと意味がないとも話しました。このことはみんなで考えないといけないことだと強調されました。

閉会の言葉で、事務局の高岡 岑郷さんは、「維新の会」を持ち上げる雑誌などの記事を紹介しました。その中では、1930年ころのドイツで、ヒトラーが進出した時のポスター（右下の写真がそうです）に使われている言葉が、そのままの形で使われているという危険性を指摘しました。「社会を変えたい」という気持ちを、再び間違った方向に向かわせないため、よく考えなくては、と思いました。（代田1丁目・岩瀬 薫）



（撮影：代田5丁目・小澤 満吉）

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

「我々の最後の希望
ヒトラー」のポスター

7・16 さよなら原発 10 万人集会に参加して思う

梅雨明けの猛暑の中、7月16日に代々木公園で開かれた、「さようなら原発10万人集会」に参加した。代々木公園駅から会場へ向かうどの歩道も人で溢れていた。やっと会場にたどり着くが、すでに中央の広場とサッカーグラウンドは埋め尽くされ、立錐の余地もない。炎天を避け、会場を遠く臨む公園の端に腰を下ろした。

隣り合わせたひとは「国民の総意を無視して、野田総理は大飯原発3、4号機の再稼働を進めた。われわれが行動しない限り、伊方原発、玄海、川内、柏崎刈羽などと再稼働は続く。そうさせないために来た」と思いを語った。同感である。ここに集った17万人が共有する思いであり、脱原発と大飯原発の再稼働撤回を支持する多くの国民の思いでもある。

日本中の原発は5月5日を期して全てが停止状態に入った。この日を脱原発の折り返し点にできるとの期待を我々は抱いた。

しかし、野田首相は国民の総意を踏みにじり6月16日に「国民生活を守る」と称し、大飯原発3、4号機の再稼働へ踏み出した。

地震や津波の対策について、「福島を襲った規模の地震や津波に大飯原発が見舞われても事故は防止できる、全ての電源が失われても、炉心損傷は起こらない」と断言した。しかし、福島原発の事故原因の解明すらもできていない今、原発の苛酷事故に対する対策など立てようもなく、首相は「安全神話」に縋りついたといわざるを得ない。

過酷事故がひとたび起これば、広い範囲でしかも時を超え、命が脅かされ、家族や社会のつながりが壊され、土地が奪われ、生活と生業が破壊されていく。「国民の生活を守る」どころか、国民生活や命を犠牲にする再稼働が始まったといわねばならない。一人一人の命や生活に犠牲を強いる原発は、人間の営みに相容れるものではない。私たちが脱原発社会を求める理由はここにある。

現政権とそこに離合集散する政党は、原発再稼働だけでなく、TPP参加、消費税引き上げ、社会保障の改悪、オスプレイ配備などことごとく国民に犠牲を強いる政策を進めている。これらの政策は、基本的人権と、生命、自由、幸福追求権が尊重されねばならないとする憲法の理念に反することは明らかである。

脱原発を実現するためにも、憲法を守る、守らせる運動を広めて行くことが必要であると思っている。

(代田2丁目・坂本 功)



集 会 等 の 紹 介

9月29日(土) 午後1時～4時

参加費：前売1000円 当日1500円

九条の会講演会 ―今、民主主義が試されるとき―

講師 大江 健三郎、奥平 康弘、澤地 久枝さん

朗読 俳人「九条の会」など

会場：日比谷公会堂

主催：九条の会

連絡先：事務局 Tel 03-3221-5075 Fax 03-3221-5076

9月30日(日) 午後1時半～

参加費：前売1500円 当日1800円

世田谷 反核・平和コンサート2012

会場：中町ふれあいホール (東急・大井町線・上野毛駅/等々力駅下車 徒歩10～15分)

主催：実行委員会 連絡先：Tel 03-3426-3627 (中田音楽)

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。